

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1586 号	氏名	中島 真帆
学位審査委員	主 査	前田 隆浩	
	副 査	川上 純	
	副 査	青枝 大貴	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、予後不良である成人 T 細胞白血病 (ATL) の新規治療として自然免疫エフェクター細胞輸注治療に注目し、実用化を見据えた基礎研究であり、研究目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 ATL 患者の末梢血を用い、$\gamma\delta$T 細胞、NK 細胞、そして混合細胞の 3 通りのプロトコルでエフェクター細胞を培養し、ATL 細胞株に対する細胞障害活性を確認した。また、加齢と ATL 発症による影響を考慮するため、若年健常人群、ATL 患者と年齢中央値を合わせた高齢患者群でも同様の実験を行い、さらに、PTA/IL-2/IL-18 プロトコルの比較対照として PTA/IL-2 プロトコルについても解析しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 PTA/IL-2/IL-18 を用いた培養プロトコルは、PTA/IL-2 プロトコルと比較し、$\gamma\delta$T 細胞を効率的に増幅することができた。また、$\gamma\delta$T 細胞が少ない症例においても NK 細胞が相補的に増幅できるため、自然免疫エフェクター細胞を効率的・安定的に得られる手法であることが確認された。さらに、PTA/IL-2/IL-18 プロトコルで増幅させた自然免疫エフェクター細胞は ATL 細胞株に対して強い細胞障害性を示し、抗 CCR4 抗体を加えることで抗体依存性細胞障害も期待できることから、今後の臨床応用が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は ATL 研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			